

■ 評価表 [事業所自己評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
I 事業運営の評価 [適切な事業運営]							
(1) 理念等の明確化							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている	12	13	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・グループの方針をもとに、自分達のサービスの役割が共有できているのだと感じた。 ・医療、介護連携はじめと地域とのつながり、職員さんのお人柄等貴法人の理念を具現化した事業所であると感じます。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」 ✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」 ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している	8	15	2	0	<ul style="list-style-type: none"> ・可視化しみなどで共有することは大事だと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
		[具体的な状況・取組内容] <ul style="list-style-type: none"> ・朝の全体ミーティングでは、にのみやグループ理念、基本方針の唱和を定例化している。日々意識づけができるよう理念を通してケアが行われている。 ・自宅看取りなど利用者のニーズに合わせた柔軟な看多機サービスが提供できている。 ・医療的ニーズの高い利用者が昨年度より増加しており、対応できている。 					
		[具体的な状況・取組内容] <ul style="list-style-type: none"> ・看多機ならではの、訪問介護・看護・通い・泊りサービスの魅力を理解し実践で 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あま り で き て い な い	全 く で き て い な い		
		きている・ ・事業所のRAT32をもとに具体的な取 り組みを可視化できるようにしている。 ・グループ理念に基づいて実践できている。					
(2) 人材の育成							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している	0	19	6	0		✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します ✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」 ✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・主体性を持ち、個人の年間目標とともに法人内研修や外部研修参加など自己研鑽ができています。 ・専門性や事業所の役割を意識した年間計画を作成している。					
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している	9	12	4	0	・生産性向上の取り組み（ICT・介護DX等）が垣間見えます。うらやましいです。	✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・研修案内などLINE WORKSを用いて情報発信や、把握ができています。家庭事情など業務時間外で参加しにくい職員に対しても、シフトの調整や参加しやすい環境となっている。 ・興味のある分野の研修には参加できて					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		<p>いるが参加率は低い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修参加を積極的に促し、業務時間内でも参加できるよう協力し合っている。 					
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている	11	14	0	0		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します ✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます
(3) 組織体制の構築							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている	18	6	0	1	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域の一員としての事業所」の取り組みが素晴らしいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の視点から、充足度を評価します
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議内容をあまり把握できていない。 ・利用者と共に地域活動に参加する機会は増えたが、挨拶運動や小学生の見守り 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		<p>ができていないままとなっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題を共有して解決のために動いている。 					
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている	12	12	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革の取り組み状況を可能な範囲で会議上での公表を望みます。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します ✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます
(4) 情報提供・共有のための基盤整備							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている	8	17	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・所要時間の短縮化、効率化が計られかつその提案と一線ができた職員がいらっしゃると推測します。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		<p>一に情報共有ができています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報共有ツールが複数ありアセスメントできる機会がある。 					
(5) 安全管理の徹底							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている	4	13	8	0		<p>✓ 「各種の事故に対する予防・対策」の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます</p>
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インシデント、アクシデント報告をすることが以前は読み上げが定番になりがちであったが、その都度対応方法の変更が必要な場合は、早急に対応する風土になっていきました。ヒヤリハット報告の機会が増え、リスクへの関心が高まった。 ・職員の連絡網を各自共有できている。 ・災害訓練については、今年度中に取り組む。 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている	2	9	13	1	<ul style="list-style-type: none"> ・内容が煩雑過ぎて職員差が露呈すると思います。その差をいかに埋めるかの取り組みがあればご教示いただきたいです。 ・毎年でなくとも実施を望みます。やってみないと課題も（良し悪し）分からないので。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます
II サービス提供等の評価							
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供							
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成							
① 利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている	7	16	2	0	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問時、送迎時に可能な限り聞き取りしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等も含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します ✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護におい

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足		
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い				
		<ul style="list-style-type: none"> ・家族や利用者の在宅時の生活の様子は、送迎などに行かないスタッフにはイメージが付きにくい場合がある。 ・通い連絡ノートを活用し、自宅での様子など可視化できる。コミュニケーションを図る機会にもなる。 ・いつでも連絡できる環境が整っている。 							<p>ては、家族等を含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります</p>
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている	6	17	2	0	<ul style="list-style-type: none"> ・お忙しい中でのカンファ開催、情報共有の充実かと思えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます 		
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職種を問わない情報共有ができています。 ・情報共有や対応、関心については同じ意識で関わることは難しいが、カンファレンスで話し合うことで、興味を持つ機会は作るようになった。 							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている	6	18	1	0		<p>✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます</p>
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・記録や計画に今後は盛り込み、個別적인関わりを一層強める。 ・家族、本人の考えに添えている。 ・一人一人の利用者に対しケアプランを立て、目標達成に向けて動いている。 					
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている	5	18	2	0		<p>✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します</p> <p>✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます</p>
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別リハビリやレクリエーションなど昨年度に比べ、介護職員が中心になって取り組んでいる。 ・機能維持ができるように取り組んでいる。 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	おおよそ でき ている	あまりで きてい ない	全く でき てい ない		
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている	4	20	1	0		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です
<p>(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践</p> <p>① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映</p>							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている	5	18	2	0	<ul style="list-style-type: none"> ・計画作成者とサービス実行者との共有・連携が巧く機能している感じます。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します
<p>② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映</p>							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問すること	3	15	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・泊りは最も安心感があると思いますが、多機能で不安を解消できるのは素晴らしい 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
	で、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している	が、最近では自宅を中心とした看多機能機能が発揮できてきた。 ・各職種の視点から意見が言え、家族へのアドバイスもできている。				と感じます。	を評価します ✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている	6	19	0	0	・プランをみなで共有することは難しいなと自分も感じています。	✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・主治医への報告に迷うときはあるが、些細な変化でも伝えられるようになった。 ・ケアプランを確認する機会が少ないため、専門職がどのような視点で関わるのかを今後は意識づけたい。					
(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている	10	15	0	0	・貴法人の最大の強みでしょう。	✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活か
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・利用者の状況について気づきを伝え合っている。 ・以前に比べ専門性が高まってきている。各専門職がどのような関わりが必要					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
		<p>であるかを考えながら取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療と介護の連携ができています。 ・リハビリやADLについては介護スタッフが中心に。疾患や今後の方向性などの意思決定支援は看護職員が中心に関わり話し合いができています。 					
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている	15	9	1	0		<p>✓ 「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します</p>
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・受け持ち中心にしっかりコンタクトを取り、問題点があればすぐに対応策を見つけられている。 ・担当者からの情報共有や発信、家族との関わりについて今後は強める。 					
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている	9	14	2	0	<ul style="list-style-type: none"> ・医療法人ならではの医療的な知識・技術の学びを受け易い環境以上の効果を見込んでいるきがします。 	<p>✓ 「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します</p> <p>✓ このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の1つとして期待されます</p>
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・申し送りやケアマップを活用し実施できている。 ・業務中に適宜口頭で伝える、またはカンファレンスを開催している。 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
		<ul style="list-style-type: none"> ・根拠を持って指導できるような意識づけができるようになってきた。 ・カンファレンス、日々の記録の活用により情報共有ができています。 					
(4)利用者等との情報及び意識の共有							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	8	15	2	0		✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・利用者様、家族目線での説明を意識している。					
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	7	16	2	0	・誰でも理解できる言葉で説明は、利用者側からしても嬉しいと思います。	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・専門用語を使いすぎず、わかりやすい言葉で伝えている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の生活、支援状況、可能性を意識したケア方針の検討は、多職種で行える雰囲気になってきた。 					
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	8	16	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ・すごい安心です。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・退院日に看護師が訪問する、医療処置などを伝える必要があるときは訪問看護だけではなく、看護師が送迎に行くなど対応している。 ・在宅生活に不安が無いようにパンフレットなど作成し用いて、説明をしている。 					
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している	10	15	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ACPの取入れを。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意思決定の内容は利用者や家族の状況変化により変わるものと認識し、状況変化の場面ごとに、話をする時間を設ける様に努力している。 ・終末期の経過を知ることによって、利用者が叶えたいタイミング、家族への促しや協力を提案しやすくなる。理想や振り返りだけではなく次に繋げていきたい。 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができる	5	18	2	0		✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・主治医やこちらの視点ではなく、利用者がどうしたいかを聞き出せる、添える方法となるような意思決定を行えている。					
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している	5	12	3	0	・看取りについてタイミングや伝え方が難しいですね。	✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・看取りのパフレットを活用しながら、経過についてタイミングをみながら指導ができるようになってきた。					
2. 多機関・多職種との連携							
(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報	6	17	2	0		✓ 「利用者の円滑な在宅生活への

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・二宮内科病棟へ直接出向き情報収集を行っている。 ・カンファレンスから細かな情報収集が行える。 ・以前に比べてタイムリーに対応体制が整えられるようになってきた。 利用者の時間を本人らしく過ごせるように配慮できるようになってきた。					移行」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている	12	13	0	0	・利用者の安心に繋がると思っています。	✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します ✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・緊急時や、体調変化の際には看護師から主治医に連絡がされている。 ・予測される症状については、指示受けができている。 ・地域の医療機関との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制を構築していく。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている	9	16	0	0		<p>✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します</p>
		<p><u>【具体的な状況・取組内容】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急時に備え待機人員の確保を行っており柔軟に対応ができています。 ・土日祝関係なく利用者対応や希望や要望に応えられる体制が整えられている。 					
(2) 多職種との連携体制の構築							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている	0	14	9	2	<ul style="list-style-type: none"> ・情報提供不足であれば申し訳ないです。 ・会議では現在の地域の気になることや課題・問題になるであろう住人の方について話がでますが、現在多機能を利用されているかたで、さらに地域でのサポートが必要か？といった話は少ないように思いました。 	<p>✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します</p> <p>✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」</p> <p>✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象で</p>
		<p><u>【具体的な状況・取組内容】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に地域の社会資源等については情報収集、周知不足を感じている。 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
						利用までに様々な検討がなされるので仕方ないと思います。行われてるサポートがより可視化されると評価結果が違う気がしました。(受け止めが低いので少し気になりました)	す
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画							
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見る事ができるような方法での情報発信が、迅速に行われている	6	13	5	1	・ちょいちょい見えています。	✓ 「誰でも見る事ができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・ホームページなどでいつでも閲覧できるようになっている。					
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的	1	12	16	1	・活動内容からみてももったいない気がします。	✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です ✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・地域活動参加は行えるようになってきたが、啓発活動にまでは至っていない。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
	な啓発活動が行われている	今後町内会に関わる機会が増える取り組みを行う。				・地域のサークルへの利用者さんとの参加…なかなか難しい項目ですね。	が考えられます。 ✓ 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます
(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している	2	11	10	2		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください ✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	17	7	0	1		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・常時受け入れは可能。 ・自宅で必要な医療手技について説明指導ができています。					
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	5	14	4	2		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・マスクタイプの人工呼吸器の機器管理を行っており、使用方法について不明な点は学習会を行った。 ・受け入れについては、拒否なく可能。					
37	○ 「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	18	7	0	0	・最期まで…のニーズは高い分、安心感や信頼感に繋がっているのではないでしょう か。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くで
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・意思決定の末、どの場所を希望されても支援できる体制になった。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
	る	<ul style="list-style-type: none"> ・看取り人数は、前年度 30 件だが今年度 43 件でありターミナルケアが充分行える体制に整えられている。 					きていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している	1	15	9	0		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「内容等の理解」について、その充足度を評価します ✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます ✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などが無い場合は、「全くできていない」
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している	8	14	2	1	・ラッシュールメゾンに特化したイメージでした。誤解していました。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します ✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます ✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている	1	7	8	4		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがな

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あま り で き て い な い	全 く で き て い な い		
							い場合は、「全くできていない」
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている	1	15	8	1	<p>・取り組みに対する反応や効果を可能な範囲で知りたいです。</p>	<p>✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します</p> <p>✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整えていくなどの役割も期待されます</p> <p>✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」</p>
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>・家族への支援指導を行っている。</p> <p>・ケア方針の決定や家族の介護のアセスメントを力意識した関わりについては、まだ弱い部分はあるが全体的な風土の醸成から取り組み、スキルアップにつなげる。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
Ⅲ 結果評価				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・本人、家族の要望や目標に添えるケアはできている。		✓ 「計画目標の達成」について、評価します
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・看多機サービスにおいて医療的ケアを要する方への介入、情報共有、柔軟な24時間対応が行えている。		✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」について、評価します

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない 5. 看取りの希望者はいない <p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看取り期において本人家族の意思決定支援や急変時の対応、本人や家族の意向に添えるケアの追加修正及びカンファレンスが常態化できてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅を希望される家族等の動向や推移をグラフ化されていてわかりやすい。(数字的な増減、傾向) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します ✓ 在宅での看取りは、事業所内(通い・泊まり)での看取りを含みます ✓ 在宅での看取りの希望者がない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」